

「新しいお友達を迎えて」

～充実の2学期に～

校長 森 勝義

8月に入り、早2週間が過ぎました。補習授業校は常に「出会いと別れ」が宿命ですが、この出会いを大切に、「充実」した2学期にしたいものです。

2学期はまず、なんと言っても「第40回運動会」があります。また、情報交換などを通して、学校と保護者（ご家庭）の一層の信頼関係を強め、豊かな心とたくましく生きる力を持った子どもたちの育成を目指しましょう。今週は子どもたちの作品を中心に掲載します。

4年2組 国語「一つの花」を読んで

依田仁之祐

ゆみ子が、いつも「一つだけちょうだい。」と言っておなかをすかしていたのはどうしてだろうとふしぎに思いました。話を読んでいくと、ゆみ子は戦争のせいで、配給される食べ物だけでは足りずに、こまっていたとわかりました。ぼくは、かわいそうだと思いました。自分もゆみ子のようにいつもおなかをすかせていたくないから、もう二度と戦争はおこしたくないです。

金田 悠聖

ぼくは、「一つの花」を読んで、かなしいお話だと思いました。それは、もし、戦争に行くのが自分のお父さんだったらと考えたからです。戦争に行ったら、二度と帰ってこれないかもしれません。もし、帰ってきたとしても、大けがをされていて何もできなくなるかもしれません。戦争中は、二十さいから四十さいまで戦争に行き、自分から軍隊に入りたいという人は、十七さいから入れたそうです。でも、しばらくすると、十九さいから四十五さいまで戦争に行かなければならなくなりました。自分から入りたい人は、十五さいからでも入れるようになりました。最初は、体の強い人が行っていました。しばらくして、体の弱い人も行かなければならなくなっていました。だから、体の弱いゆみ子のお父さんもとうとう戦争に行っていました。筆者は、戦争は人の命を大量にうばって、人の生活がたいへんになるからだめなことだと言いたくてこの物語を書いたと思います。

ウェリングこう

ぼくは、最初は、ゆみ子が「一つだけちょうだい。」と戦争が終わった後もまだ言い続けると思いました。それは、ゆみ子が覚えた口ぐせをわすれないと思ったからです。けれど、戦争の後の場面では、ゆみ子は「一つだけちょうだい。」と言わなくなっていておどろきました。戦争が終わって、食べ物を戦争中のようにがまんしなくてよくなったから、もう言わないんだと思いました。ぼくは、筆者は、「一つだけちょうだい。」と言わなくなったゆみ子から、戦争が終わって平和になったことを伝えたかったのだと思いました。

「空き缶」

高2 梅村 彩音

被爆症で悩んでいる人たちの日常を私は全く知らなかったのだと、このお話は気づかせてくれました。筆者を含む女性5人が廃校される母校を訪れて思い出話をしていました。追悼会や弁論大会などの思い出話をしながら被爆後の人生の辛さを語り合っていました。5人中4人が被爆の

経験があり、原爆に囚われながら生きています。来るはずだったきぬ子も、原爆症の手術のため来られなかったのです。5人が教室を訪れた時、きぬ子の空き缶のことを思い出しました。5人で思い出を掘り返していくうちに、筆者は初めて両親の骨の入った空き缶を大事そうに持っていた少女がきぬ子だった事を知りました。

私が一番印象に残ったのは、「焼けた家の跡に立って、白い灰の底から父と母の骨を拾う、幼いきぬ子の、うつむいた姿」というセリフです。筆者が学生の頃、きぬ子の空き缶の真実を知った時に彼女の頭の中に思い浮かんだきぬ子の姿です。私は心が苦しくなりました。筆者が思いついた情景が私のものよりも遥かに悲惨だったからです。私はきぬ子が捜索隊から骨をもらっているとはばかり思い込んでいたが、よく考えてみたら、そのような制度はきっと当時パニックの状態を整っているはずがなく、私は改めて全然被爆について知らなかったのだと思いました。加えて、筆者の文章からは、一人ぼっちで寂しく、涙も流さず拾っている冷たい空気を私は感じ取りました。筆者はきぬ子のように両親をなくしたきぬ子のような子を何人も見てきたのだろうと思いました。

これから実際に被爆者から戦争の話を聞くことはできなくなっていく、私達の思いが遠ざかっていってしまいます。しかし、苦しんでいる人のことを知らないと私達は助けられないです。ですので、私は「空き缶」のように被爆者の日常を見られる本はとても大切なのだと思います。

ふたつの目標

高2 松浪 凜

私にとって、日本語で日本人と同じ教育を受けるのは、中学3年生に補習校に在籍していたとき以来になります。なぜ急に補習校に戻りたくなったのか。理由はふたつあり、一つ目は勉強がしたいから。もう一つは日本の文化に触れる機会が欲しいからです。そんな私には高校2年生の間に成し遂げたい目標が二つあります。一つ目は、学習内容について自分の中で十分に理解ができるように努力をすることです。

高校1年の授業を受けていなかった私が知識不足なのはわかっているし、当たり前なので、そこで諦めたり、言い訳をするのではなく、先生方のお力を借りながら自分で理解して新しい知識を吸収したいです。二つ目は日本人のコミュニティに参加することです。日頃、現地校に通っているため日本人と話す機会がすっかり減ってしまい、夏休み中に久しぶりに日本の友達と話した時、自分が周りから少し浮いている気がしました。なので、補習校で日本人と話す機会を増やし、また日本に帰国した際に、日本の社会になじめるようにしたいです。以上の二つを目標に1度しかない短い高校生活を、自分にとって有意義なものにしたいです。

しかいけい

四海兄弟

世界中の人々は、みな兄弟のように親しみ合うべきであるということ。「四海」は四方の海。転じて

未来を考えない者に

未来はない。

ヘンリー・フォード

1863年〜1947年。アメリカの実業家

未来をどう作るか設計図を引いて、思い描いた

未来を実現させよう。



ヒゲ森の言葉の森・探検

